



「笹川十八枚村砂金山地図」 [明治初期] (金子勘三郎家文書)

## 佐渡西三川砂金山採掘の歴史

西三川流域は古くから砂金を産出する場所として知られています。平安時代後期の『今昔物語集』や鎌倉時代の『宇治拾遺物語』には、能登国の鉄掘り(砂鉄の採掘)集団の長が佐渡国で砂金を採った説話があり、その舞台が西三川の地であると考えられています。

砂金山閉山以降、砂金採取に関わった人々は生業を鉱業から農林業へと変え、この地に留まりました。現在は地域の皆さんで構成する「笹川の景観を守る会」によって景観の保全が図られています。

## ご見学の皆様へのお願い

西三川地区は、現在も農業を中心とする人々の生活が営まれている場所です。砂金山に由来する農山村の景観を守り、永く後世に残していくため、道標および案内板以外はほとんど観光客向けの施設を設置していません。

ご見学に当たりましては、一般の観光地とは異なる本地区の事情をご理解いただき、以下の事にご配慮いただきますようお願いいたします。

1. 車の通行  
県道・市道以外の農道・林道や民家敷地内への車両の乗り入れ・駐車はご遠慮ください。
2. 見学について  
地区内の道路は狭いため、沿道脇の駐車はご遠慮願います。  
定められた散策ルート以外には立ち入らないでください(民家の敷地、水田のアゼ、山林など)。
3. トイレ  
現在、公共トイレはございません。ご了承ください。
4. ゴミ  
ゴミ箱は設置していませんので、ゴミはお持ち帰りください。
5. 落石等の注意  
砂金採掘跡の山の斜面は落石及び地滑りが発生しやすい場所です。斜面等には近づかないでください。
6. 植生の保護  
西三川地区の豊かな里山の景観は人と自然とのバランスを保った営みによって支えられています。樹木及び山野草・山菜などの採取はご遠慮ください。植生の保護にご協力をお願いします。

## 《交通アクセス》西三川地区(笹川集落)にお越しになるには



- 両津港から…車で約60分(国道350号線)
- 小木港から…車で約30分(国道350号線・県道432号線)
- ※ 笹川集落へ直通の路線バス等はありません。  
レンタカー・タクシーをご利用ください。

## 佐渡金銀山ナビ

Explore Sado Gold & Silver Mine  
スマートフォン用アプリ



iPhone用



Android用

## 世界遺産推進課

ホームページ  
「佐渡を世界遺産に」



## お問い合わせ

新潟県佐渡市世界遺産推進課 TEL: 0259-63-5136  
きらりうむ佐渡 TEL: 0259-74-2215

発行日: 2022年07月29日

# 笹川見どころマップ

## 重要文化的景観 佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観



## 文化的景観とは

棚田や里山など、自然と人の生活の営みとが作り上げてきた景観のことを言います。その地域の特色や暮らしを理解するために欠くことのできないものを自然の生態系を含めて保護するための文化財です。

西三川地区では、明治5年(1872)の砂金山閉山以降、現在まで集落や周辺の山並み、「大流し」という砂金採掘による採掘地や水路・堤などの痕跡が良好に残り、江戸時代の絵図と大きく変わることなくかつての繁栄の様子をうかがい知ることができます。

平成23年9月に重要文化的景観に選定されました。



# SASAGAWA





たてのこしやま  
立残山

西三川砂金山の採掘地のひとつで、現在も人力によって掘り崩された急斜面を望むことができる。山裾には立残山堤から続く水路跡があり、掘り崩した土石に大量の水をかけて余分な土砂を洗い流し、比重の重い砂金を水路の底に溜める「大流し」という作業が行われた。このような新技術が戦国時代末期頃から導入されたことにより、産金量は飛躍的に増大した。



おおやま じん じん じん  
大山祇神社

文禄2(1593)年、砂金山の繁栄と安全を祈願して建てられた神社。相川の大山祇神社は、この神社を勧請したものといわれる。能舞台は、19世紀後半の建築と推定され、昭和20年代まで能が演じられていた。鳥居や狛犬などの石造物は、明治時代に笹川から北海道への移住者が寄進したものである。4月15日の例祭日には、大獅子を出す。



かね こ かん さぶろう け  
金子勘三郎家

江戸時代後期から明治5(1872)年の閉山まで砂金山の名主を務めた。主屋と土蔵は江戸時代後期の建物である。一方、納屋・牛納屋・便所は明治時代初期の建物であり、砂金山閉山後に、鉱業から農業へと生業が転換した様子を今に伝えている。(修理工事のため、敷地内への立ち入りはご遠慮願います)



きんざん やくしょあと きんざん やくたくあと  
金山役所跡・金山役宅跡

江戸時代、西三川砂金山には金山役所が置かれ、佐渡奉行所から2名の役人が派遣された。採取された砂金は、月末毎に役所に集められて計量され、奉行所へ納める分と、金掘りたちの取り分が決められた。役所跡と役宅(役人の住宅)跡は、現在も江戸時代の絵図と同一の場所にあり、石垣で囲まれた平坦面が役所跡、道路を挟んで向い側の畑が役所跡である。



いの かみさわ  
井ノ上沢

この付近には、かつて諏訪神社があり、その社領田の場所が井ノ上沢といわれている。弘治年間(1555~58)、松浪遊仁という人物によって砂金採掘にともない掘り潰されたという伝承があり、寛文年間(1661~73)に諏訪神社は隣の小立村に移転した。現在、水田は復興され、笹川集落の住民によって耕作されている。



たてのこしやまつみあと  
立残山堤跡

江戸時代、西三川砂金山では、大流しに用いる大量の水を溜めるための堤が各所に設けられた。この堤の水源地は、約1キロメートル離れた場所にあり、江戸時代の絵図によると、途中トンネルを掘って水を引いていたことがわかる。閉山後、周辺の農地の溜池に転用されたが、現在は埋め立てられている。



いしづみ 水路あと  
石積み水路跡

西三川砂金山では、堤に溜めた水を採掘地へ送るために、砂金採掘で出た余分な石を利用して石積みの水路が作られた。この水路跡は、立残山堤から山居山採掘地へ向かうもので、一部は道路によって寸断されているものの、石積みの上に平らな石を並べ、底面に水漏れ防止の粘土を貼って水を流した痕跡をみることが出来る。



きんざん ささかわしゅうらくざい せき  
旧金山・笹川集落境の石碑

笹川集落は、戦国時代末期に、一カ月に砂金十八枚(約2.9キログラム)を上杉氏に納めたことから、「笹川十八枚村」と呼ばれるようになった。それ以前は、小立村地内である北部の「金山」と、西三川村地内である南部の「笹川」の2つの村に分かれており、現集落センター付近に立つ道祖神の石塔が、かつての村境の名残をとどめている。



あみだどう  
阿弥陀堂

江戸時代の絵図に描かれている建物で、内部の須弥壇には中世的な要素を持つ渦巻き紋様が彫られている。須弥壇内には、江戸時代前期の作と推測される阿弥陀如来像が安置されていることから、ほぼ同時期の建立と推測される。この付近には、中世に遡る山伏の修行場などもあり、かつての砂金採取に関わった人々の信仰の名残をとどめている。



きゅうにし かわしやうがっこう ささかわぶんこう  
旧西三川小学校笹川分校

明治13(1880)年の創立で、現在の校舎は、昭和37(1962)年に建てられたものである。昭和33年のピーク時には35名の児童が在籍したが、平成21(2009)年には4名となり、平成22年3月、129年の歴史に幕を閉じた。しかし閉校後も、笹川集落の住民によって、毎年7月に運動会、11月に収穫祭が開催されている。



あらかみやま  
荒神山

山伏が修行したと伝えられる岩山。江戸時代の絵図には、「この山に入ると祟りがあるとして、住民は大いに恐れた」という記述があり、近くには山伏が修行した滝跡もある。砂金山の発見・開発には、野山に分け入り修行する山伏が深く関わったとされており、笹川集落一帯には、その痕跡を示す信仰の場が数多く残されている。



とらまるやま  
虎丸山

西三川砂金山最大の稼ぎ場で、江戸時代の絵図には、山の上下二カ所で砂金採掘を行っていた様子が描かれている。虎丸山に至る大流し用の水路跡は約3.9キロメートルで、西三川砂金山の水路の中では二番目の長さである。現在も掘り崩されて露出した赤い山肌が見られ、かつて砂金山で栄えた笹川集落のシンボリック存在となっている。

笹川十八枚村 → 分岐路には誘導サインが設置されています